



テクネ・マクラ「芸術は永し」

TEKNE MAKRA

女子美術大学歴史資料室 ニュースレター

第 15 号

2022（令和 4）年 3 月 31 日発行

News Letter, vol. 15

University's Historical Resources Unit,
Joshi University of Art and Design



JOSHI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

展覧会「2021年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み」 展開催

高橋 直子（歴史資料室学芸員）



図1 左下：編物科教員・生徒共同制作《テーブル掛》
サンフランシスコ万国博覧会（1915年）出品作品 大正3（1914）年頃

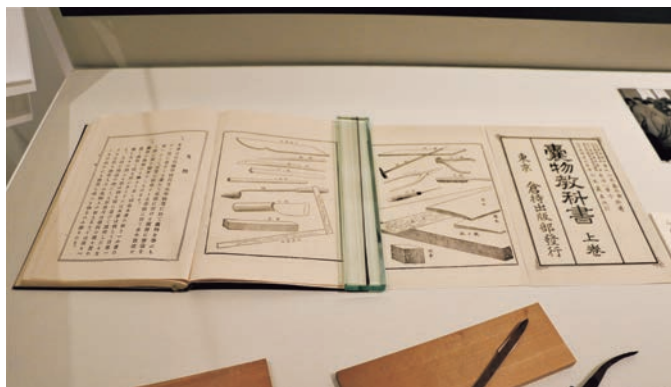


図2 山本嘉兵衛・赤沼八重子共著『袋物教科書』上巻
倉持周治商店出版部 大正2（1913）年

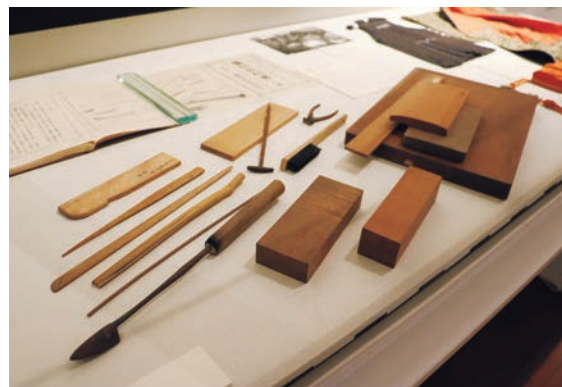


図3 《袋物道具》昭和4～8（1929～1933）年頃

女子美術大学歴史資料展示室では、令和3（2021）年4月7日～令和4（2022）年3月18日に展覧会「2021年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み」を開催しました。令和2（2020）年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため、感染防止対策を講じながらの実施となりました。緊急事態宣言発令時には、入場を学内関係者（学生・教職員）に制限しました。また、本展覧会を紹介する動画を制

作し、ウェブサイトなどにて動画を配信しました。

本展では、収蔵資料の中から、明治・大正・昭和期の生徒・学生作品や教材・道具などを紹介しました。本稿でその一部を紹介します。本展のなかで最も古い生徒作品は、大正4（1915）年に開催されたアメリカ・サンフランシスコ万国博覧会に出品されたとされる《テーブル掛》（図1）です。裏面には「これに要した時間八百時間 これに用ひた

る色糸十種」と書かれた布が縫い付けられており、当時の編物科教員・生徒が数ヶ月に渡り制作したことがわかります。この作品をはじめ各専攻の作品を出展した万博にて本学は高い評価を受け、金牌を受賞しました。

裁縫科の資料として、昭和19（1944）年に師範科裁縫部を卒業した糸崎美都子による課題作品の《^{はこせこ}宮迫

習慣が一般化され、さげ袋や掛け袋に代わって発達しました。宮迫には紙、箸差、懐中鏡などを入れます。二つ折りの形状で、とじ帯に香袋が付いています。袋の形をした物入れのことを袋物^{ふくもの}といい、宮迫もそのひとつです。これと併せて、本学裁縫科教員・赤沼八重子らが制作した『袋物教科書』上巻（図2）や昭和初期に使われた袋物道具（図3）も展示しました。

日本画科の資料として、昭



図4 左：井江春代《人物》昭和16～19（1941～1944）年
右：一村久世《石膏デッサン》大正14（1925）年



図5 糸崎美都子《宮迫》昭和17（1942）年



図6 仙波知己《卒業制作 ポスター1》
昭和60（1985）年



図7 《女子美術大学工芸科 染織工芸展ポスター》
昭和41（1966）年

和19（1944）年に師範科日本画部を卒業した井江春代の在学中の課題作品《人物》（図4）を紹介しました。井江は、本来4年間学ぶところを戦時下であったため、3年半で繰り上げ卒業となりました。抑揚のあるのびやかな描線から在学中に確かな技術を身に付けたことがうかがわれます。

また、西洋画科の資料として、昭和4（1929）年に西洋画科高等師範科を卒業した一村久世の石膏デッサン（図4）

を紹介しました。当時の教員は、洋画家で東京美術学校教授の岡田三郎助や洋画家で卒業生の足助恒でした。基礎学習としてまず石膏像のデッサンを学び、その後人体デッサンや戸外写生を行うなど、実物写生を重視した教育が行われました。

女子美術大学発足翌年の昭和25（1950）年に設置された工芸科では、教育の一環として学生作品の展示・即売会をデパートにて行いました。学

生が取り仕切るかたちで、昭和32（1957）年から約30年間実施されました。本展では、昭和41（1966）年に開催された女子美術大学工芸科の染織工芸展のポスター（図7）を紹介しました。このポスターは、糸を染め、手織機で織った布に型染で文字を染めています。

デザイン科の資料として、昭和60（1985）年に芸術学部産業デザイン科デザイン専攻を卒業した仙波知己による《卒

業制作ポスター》（図6）を紹介しました。架空のイベント「間—日本の時空感覚」のポスターとして各約180×約90cmのポスターを合計6枚制作。本展ではそのうち1枚を展示しました。

各時代の様々な生徒・学生の課題作品や教材の展示により、当時行われていた教育内容を理解する機会となりました。

新型コロナウイルス感染症に関する女子美術大学の動き

廣瀬 菜穂（歴史資料室学芸員）

女子美の動き

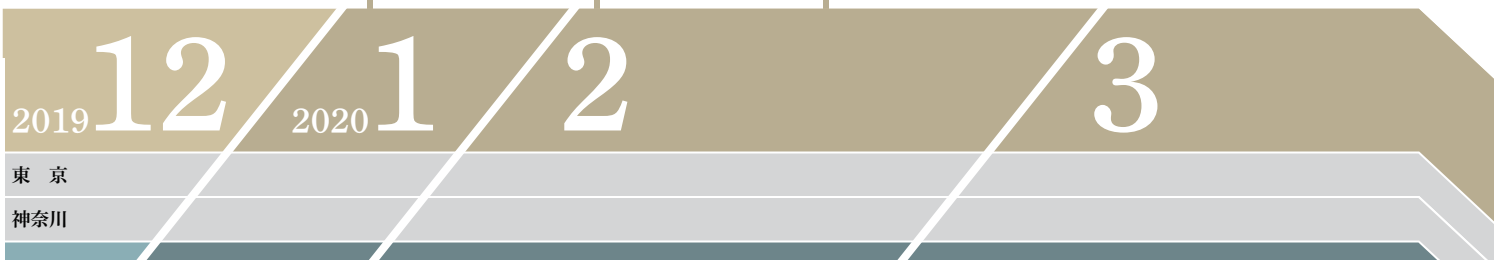
1月30日
女子美 HP にて新型コロナウイルスに関する注意喚起について通知。

2月18日
中国からの帰国・入国後の COVID-19 罹患注意について通知。

2月26日
学生・教職員へ中国湖北省への渡航中止を勧告。

2月28日
特設サイト「新型コロナウイルス感染症対応について」にて掲載開始。原則学内への入構禁止、事務取扱時間変更、クラブ活動の自粛を通知。

令和元年度学位・修了証書授与式、「JOSHIBISION2019 “アタシの明日”」、「2019年度 女子美術大学 女子美術大学短期大学部 卒業制作展」、「2019年度 女子美術大学 女子美術大学短期大学部 卒業制作展」、「2019年度 女子美術大学大学院 博士前期課程 修了制作作品展」、「オープンキャンパス in 卒業制作展」中止を発表。「東京五美術大学 連合卒業・修了制作展」会期変更を発表。



12月31日
中国当局からWHOへ原因不明の肺炎発生を報告。

1月7日
WHOが中国・武漢の患者から新型コロナウイルスが検出されたことを表明。

1月15日
神奈川県内にて日本で1例目となる感染例を確認。

1月23日
中国が武漢市を閉鎖し、空港・鉄道・フェリーなどの交通機関が全ての運行を停止。

1月29日
政府が武漢に派遣した民間チャーター機第1便で206名が帰国。

1月31日
WHOが緊急事態を宣言。世界の感染者数は計9,692人・死亡者213人に。

2月3日
大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」に乗船し香港に帰国した乗客に感染が確認され、検疫のため横浜港に入港（後に712人の感染が確認される）。

2月11日
WHOが新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19」と命名。

2月19日
大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」から陰性の乗客の下船を開始。

2月25日
政府が新型コロナウイルス感染症対策の基本方針を発表。

2月26日
政府が今後2週間の大規模イベントの中止、延期又は規模縮小等の対応を要請（後に感染状況に合わせ適宜変更）。

2月27日
政府が3月2日から春休みまで全国全ての小学校・中学校・高校などについて臨時休校を行うよう要請。

3月3日
東京都がオープンソース手法を用いて作成した特設サイトを立ち上げる。

3月10日
政府が新型コロナウイルス感染症を「歴史的緊急事態」に指定すると表明。

3月11日
WHOが新型コロナウイルス感染症のパンデミックを宣言。

3月13日
新型インフルエンザ対策特別措置法の一部を改正する法律が成立、14日から施行。内閣総理大臣による「緊急事態宣言」が可能に。

3月15日
政府がマスクの転売を禁止。

3月24日
安倍首相とIOCパッハ会長の電話会談により東京オリンピック・パラリンピックを遅くとも2021年夏までに開催することで合意。

3月26日
安倍首相が特別措置法に基づく政府対策本部の設置を指示。

世の中の動き



3月4日

学位授与式中止に伴い、配布予定の学位記等は各研究室から3月16日～3月24日の期間中に配布へ。

3月12日

令和元年度学位・修了証書授与式中止。令和2年度入学式中止の発表。

3月13日

原則学内への入構禁止・クラブ等活動自粛期間を4月5日まで延長と通知。

3月27日

授業開始日は5月11日と発表。

3月30日

在学生・教職員を対象にネットワーク環境等調査のためのアンケートを実施。

4月6日

職員、週3日を上限として在宅勤務開始（後に感染状況に合わせ適宜変更）。

4月7日

令和2年度入学式中止。

4月8日

4月9日～5月6日まで学内への入構を一切禁止し、窓口での事務取扱を中止と通知。

4月20日

前期授業は遠隔授業で実施すると発表。

4月22日

遠隔授業の整備に対して学生に一律5万円の費用補助を行うことを発表。

5月4日

学内への入構禁止期間を5月31日まで延長。同様に窓口での事務取扱も中止。

5月11日

Google のアプリケーション「Google Meet」、「Google Classroom」を使用した遠隔授業による前期授業開始。

6月22日

段階的に入構禁止措置の緩和及び段階的に対面授業を開始。第1段階<6月22日～7月11日>卒業制作・修了制作を優先して対面授業を実施。

6月25日

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた学生に対する経済支援について発表。給付奨学金制度（給付額40万円、100名）、授業料等減免制度（減免額最大60万円、100名）を新設。

6月30日

新型コロナウイルス感染症の影響により、杉並校舎2号館のイワタ売店（軽食）が閉店。

7月13日

段階的に入構禁止措置の緩和及び段階的に対面授業を開始。第2段階<7月13日～8月1日>各専攻・領域・コースの研究室から示される授業科目については対面授業を実施。

7月16日

学生1名が感染（1例目）。

8月3日

段階的に入構禁止措置の緩和及び段階的に対面授業を開始。第3段階<8月3日～8月22日>各専攻・領域・コースの研究室から示される授業科目については対面授業を実施。

緊急事態宣言（1回目）
4月7日～5月6日予定

期間延長
5月7日～5月31日予定
終了5月25日

4月1日

安倍首相がすべての世帯を対象に、1つの住所あたり2枚ずつ布マスクを配布する方針を表明。

4月3日

政府が全世界からの日本人を含む入国者に対し、2週間自宅などに待機するよう要請。

4月7日

新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」を発令。東京・神奈川を含む7都府県を対象地域とし、1か月程度の期間とすると発表。

4月16日

「緊急事態宣言」の対象地域を全都道府県に拡大（適用日：4月16日～5月6日）。

4月30日

一律10万円給付などの補正予算案成立。

5月4日

全都道府県を対象に「緊急事態宣言」を延長すると発表（適用日：5月7日～5月31日）。

5月25日

全都道府県を対象に「緊急事態宣言」を解除。

6月8日

世界銀行が世界全体の経済成長率は第2次大戦以降最悪の見通しと発表。

6月19日

都道府県をまたぐ移動の自粛要請、全国で緩和。

6月19日

濃厚接触の疑いを通知するアプリ「cocoa」利用始まる。

7月6日

政府が新たに設置した「新型コロナウイルス感染症対策分科会」の初会合が行われた。

7月20日

国内の死者が1,000人を超える。

7月22日

「GoToトラベル」キャンペーン開始（東京発着は10月1日から開始）。

7月29日

岩手県内で初の感染者を確認。全都道府県すべてで感染が確認された。

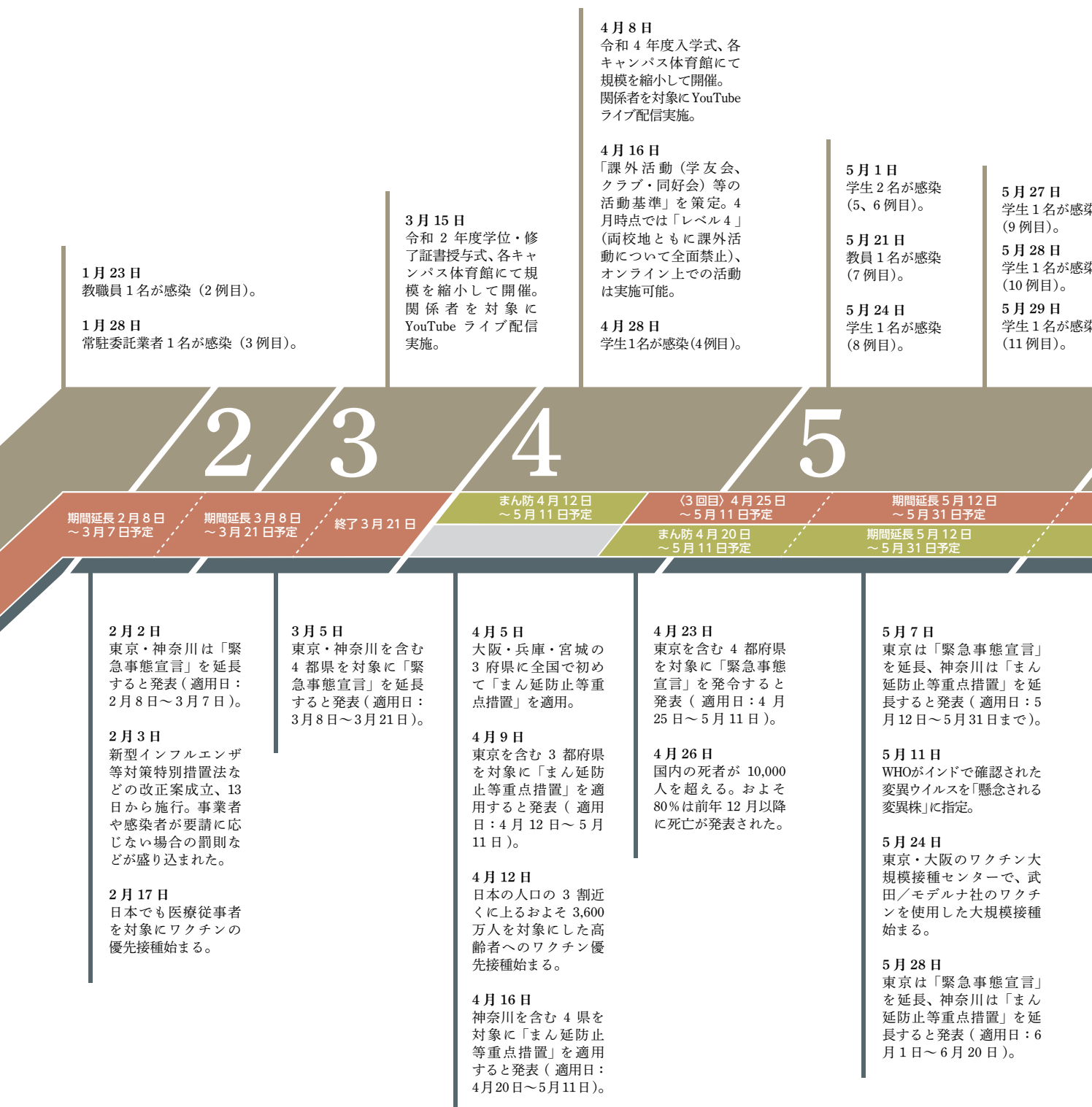
8月17日

内閣府が4月から6月までのGDP=国内総生産を発表。実質伸び率は年率に換算してマイナス27.8%とリーマンショックを超える落ち込みに。

8月28日

政府が新型コロナウイルス感染症対策の新たな方針を発表。医療提供体制の確保、検査体制は1日20万件に抜本的に拡充、ワクチンは来年前半までにすべての国民に提供できる数の確保などを目指す。









年表について

本年表は新型コロナウイルス感染症拡大に関する女子美術大学の動きをアーカイブズとして残すため、「女子美の動き」を「世の中の動き」とともに時系列で書き出したものである。中国当局からWHOへ原因不明の肺炎発生が報告された2019年12月31日から2021年12月31日までを対象期間とした。「女子美の動き」は主に大学ホームページ・特設サイト「新型コロナウイルス感染症に関する対応について」に掲載された情報、「世の中の動き」は主要な情報をピックアップし記載した。

【参考サイト】

総務省ホームページ <https://www.soumu.go.jp/index.html>

NHK「特設サイト新型コロナウイルス」 <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/>

鳥取県「新型コロナウイルス感染症特設サイト『政府の対応経過』」 <https://www.pref.tottori.lg.jp/289733.htm>

コロナ禍の現状を記録する 「参加型アーカイブズ」報告 2021年度

廣瀬 菜穂（歴史資料室学芸員）



図1『2020-2021年度 保健体育授業』 投稿者：教員



図2『実技科目をオンライン授業で受講した様子』 投稿者：学生



図3『登校する風景の変化』 投稿者：学生

女子美術大学歴史資料室では、写真や動画をウェブ上で投稿してもらい、コロナ禍の現状を記録する取り組み「参加型アーカイブズ」を行っています。

2021年度に投稿された写真・動画の一部を紹介します。教職員を対象に募集を行っていますが、8月のオンライン博物館実習では実習生にも投稿

してもらいました。

遠隔授業で実施した保健体育授業のエクササイズの様子（図1）、自宅での実技授業のために届いた教材と制作風景（図2）、イラストで描かれた、登校途中で見かけるぬいぐるみの変化（図3）、その他にも手作りマスク、友人とのリモート通話の様子などの写真が投稿されています。図1に

は「110周年ホールを専用受講教室にしたことで、大画面のスクリーンを見ながら人目を気にせず実施できた」とコメントがありました。実習生の投稿には自粛生活への物足りなさだけでなく、ちょっとした楽しみを見出している様子もうかがえました。

また、現在も投稿を募集しています。アーカイブズ充実

のため、ご協力をお願いします。詳しくは歴史資料室ウェブサイト「参加型アーカイブズ」にてご確認ください。

(<http://www.joshibi.net/history/>)

※現時点では教職員のみを対象に募集しています。投稿された写真・動画はウェブ上では公開しておりません。

2021（令和3）年4月～2022（令和4）年3月

2021 年 4 月

- 展覧会「2021年度 収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み」開催（2021年4月7日～2022（令和4）年3月18日）開催。緊急事態宣言発令に伴い、4月30日～6月20日、感染防止対策として入場制限を行い、学内関係者（学生・教職員）のみ入場可とした。



- 女子美術大学歴史資料室編『女子美術大学・女子美術大学短期大学部の歴史』第3版発行。
- オンライン授業「基礎学習ゼミ 自校史」（3回）実施。

2021 年 6 月

- 一般社団法人 女子美術大学同窓会定時社員総会開催に際し、『女子美術大学創立120周年記念 略年史 女子美百二十年 1900～2020』等提供（29セット）。展示室見学10名。

2021 年 7 月

- 杉並区立杉並第十小学校6年生見学（児童 61名、引率3名）。
- 福傳印刷株式会社（佐賀県教育庁学校教育課）に中学生向け郷土学習映像資料「佐賀巡り（仮）」動画DVDのために、菊坂校舎画像を提供。
- 2021年度第1回歴史資料整備委員会開催（オンライン）。
- ウェブサイト等にて展覧会「2021年度 収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み」紹介動画を配信。
- 緊急事態宣言発令に伴い、7月12日～9月30日、感染防止対策として入場制限を行い、学内関係者（学生・教職員）のみ入場可とした。

2021 年 8 月

- 女子美術大学美術館博物館実習（オンライン）にて8月16日「歴史資料室について」、8月20日「コロナ禍におけるアーカイブズの役割」実施。

2021 年 9 月

- 展覧会「2021年度 収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み」展示資料7点展示替え。
- 付属高校1年生松・梅・竹クラス展示室見学（125名）。
- （株）NHKエデュケーション教育部に、『高校講座 美術 I』（NHK Eテレ）第12回「アートとジェンダー」のために画像「西洋画科教室 大正3年頃」を提供。

2021 年 10 月

- 創立記念祭開催。
- 森田元子（卒業生・教員）評伝刊行のために筆者に画像「旧杉並本館内部写真」を提供。

2021 年 11 月

- 展覧会「河鍋楠美氏寄贈作品特別公開 曉翠先生と女子美術学校」（女子美術アートミュージアム）のために、私立女子美術学校校名板（複製）他8点の資料貸出、5点の画像提供。

2021 年 12 月

- 100周年記念大村文子基金 第6回女子美栄誉賞授与。受賞者 大柳久栄氏（料紙研究家・修復家・卒業生）。オーラルヒストリーアーカイブズとして大柳氏にインタビューを行った。

2022 年 1 月

- オーラルヒストリーアーカイブズとして小川桂子氏（女子美術大学歴史資料整備委員会委員・元職員・卒業生）にインタビューを行った。

2022 年 3 月

- 展覧会「2021年度 収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み」終了。
- 女子美術大学歴史資料室ニューズレター『TEXNH MAKPA テクネ・マクラ「芸術は永し」』第15号発行。

News Letter, vol. 15-5

寄贈報告

2021 (令和3) 年4月～2022 (令和4) 年3月

作品・資料をご寄贈いただいた方のお名前を記し、感謝の意を表します。(御寄贈順)

- 兼松 裕子氏 卒業証書など8件
- 岩田 嘉之氏 つまみ細工1件
- 大柳 久栄氏 東京ステーションギャラリー
図録『河鍋曉斎の底力』など3件

歴史資料の寄贈について

女子美術大学歴史資料室では本学の学校史・教育に関係する歴史資料の収集を行っております。収集にご協力いただける場合は、歴史資料室までご連絡ください。ご厚意に沿えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。また、寄贈いただいた資料の取り扱い、歴史資料室に一任ください。

News Letter, vol. 15-6

歴史資料整備委員会委員紹介

2021 (令和3) 年度
歴史資料整備委員会委員

- 委員長 原 聖 (法人参与)
副委員長 広瀬 晴美 (芸術学部准教授)
委員 小林 信恵 (短期大学部教授)
八木なぎさ (短期大学部教授)
小川 桂子 (外部嘱託委員)
谷口 秀子 (外部嘱託委員)
馬場 章 (外部嘱託委員)
上田 圭一 (歴史資料室長)
玉田里佳子 (事務職員)
守屋真奈美 (事務職員)
川上 勇 (事務職員)

News Letter, vol. 15-7

訂正とお詫び

第14号 (2021年3月31日発行) において誤記がございました。深くお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正いたします。

○5頁 下段 右 下から8行目

(誤) 柳悦考

(正) 柳悦孝

News Letter, vol. 15-8

表紙写真

私立女子美術学校洋画科教員・生徒 菊坂校舎にて

大正10～11(1921～1922)年頃

私立女子美術学校菊坂校舎前で撮影された洋画科教員と生徒の集合写真。最後列右から3人目が当時の洋画科教員の足助恒、その左斜め下の人物が後の洋画家・深沢紅子。足助恒(1879-1962)は、明治34(1901)年、第一期生として私立女子美術学校西洋画部普通科に入学、その後、同部高等科に進学。大正5(1916)年、母校の西洋画科教員となり、約30年間にわたり後進の指導を行った人物である。深沢紅子(1903-1993)は、大正8(1919)年、女子美術学校日本画科高等科に入学。2年後に洋画科高等科に転科し、大正12(1923)年に卒業。その後、一水会、女流画家協会を中心に活躍した著名な洋画家である。



テクネ・マクラ 「芸術は永し」

TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室 ニュースレター

第15号

発行日：2022 (令和4) 年3月31日

編集・発行：女子美術大学歴史資料室

制作・印刷：株式会社 日相印刷

女子美術大学歴史資料室

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8 女子美術大学1号館1階

TEL：03-5340-4658 FAX：03-5340-4683

E-mail：heritage@venus.joshi.ac.jp

URL：http://www.joshi.ac.jp/history/